

社会資本総合整備計画(水の安全・安心基盤整備) 事後評価書

計画の名称	1 狩野川流域の地域が一体となり、下水道利用の推進		
計画の期間	平成22年度～平成26年度(5年間)	交付対象	裾野市
計画の目標	下水道を完備することにより、河川や水路の浄化を促進し、衛生的な市民生活の確保を図る。		

計画の成果目標(定量的指標)

- ①整備面積を317.9ha(H21年度末)から360ha(H26年度末)に拡大
- ②下水道処理人口普及率を31.8%(H22年度当初)から36.7%(H26年度末)に増加

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値	中間目標値	最終目標値	
	(H22当初)	(H24末)	(H26末)	
①事業計画区域内で、下水道の供用が開始された整備面積	317.9ha	340ha	360ha	
②下水道処理人口普及率	下水道を利用できる人口(人)÷行政人口(人)			
	31.8%	32.6%	36.7%	

全体事業費	合計(A+B+C)	1,704百万円	A	1,684百万円	B	百万円	C	20百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	1.2%
-------	-----------	----------	---	----------	---	-----	---	-------	-------------------------	------

事後評価(中間評価)

○事後評価(中間評価)の実施体制、実施時期

事後評価(中間評価)の実施体制	事後評価(中間評価)の実施時期
裾野市事業評価監視委員会設置要綱(平成27年裾野市告示第16号)に基づき、学識経験者を含めた評価委員会を開催。	平成26年度(整備計画最終年度)
	公表の方法
	評価委員会後、裾野市ウェブサイトにて公開予定

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

上段:計画 下段:実績

A 下水道事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	事業及び 施設種別	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
1-A-1	下水道	一般	裾野市	直接	裾野市	汚水	新設	狩野川流域下水道西部処理区 管渠整備(未普及解消)	VU管φ200mm L=14,530m	裾野市						1,684	
									汚水管φ75~500mm L=8,052.27m (国庫補助事業)	裾野市						1,163	H26については見込値
合計																	

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間					全体事業費 (百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
合計																

C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	事業及び 施設種別	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		
1-C-1	下水道	一般	裾野市	直接	裾野市	汚水	新設	狩野川流域下水道西部処理区 管渠整備(未普及解消)	VU管φ200mm L=170m	裾野市						20	
									汚水管φ200mm L=182.5m							14	
合計																	

番号	一体的に実施することにより期待される効果														
1-C-1	基幹事業である幹線と接続した枝線整備を一体的に行うことにより、下水道の供用が可能な地域を広げて、下水道の更なる普及を図る。														

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

<p>I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<p>①本計画期間である平成22～26年度までの管路築造工事により伊豆島田地区(北部2処理分区)と深良地区(北部1-1処理分区)と平松・裾野駅西地区(北部1-2処理分区)及び富沢・桃園地区(北部1-4処理分区)を整備したことで、約19ha供用開始できた。</p> <p>②本計画期間である平成22～26年度までの管路築造工事により下水道処理人口普及率を31.8%(H22年度当初)から37.7%(H26年度末)まで増加させることができた。</p>
--	---

<p>II 定量的指標の達成状況</p>	<p>指標① 事業計画区域内で、下水道の供用が開始された整備面積(未達成)</p>	<p>最終目標値</p>	<p>360</p>	<p>目標値と実績値に 差が出た要因</p>	<p>平成26年度末までに富沢・桃園地区について一部供用開始を目指し計画値を設定したが、その地区の下流域は、国道下および一部長泉町道を占用し管路築造しなければならない期間があったため、その調整に予定以上の時間を費やしたことで、施工が遅れ計画期間内に当該地区の供用開始が間に合わなかったことが差異の要因である。ただし、当該地区は供用開始をすることはできなかったが、平成24年～26年度末までに約18haの面整備が完了した。これを整備面積に加算すると、H26末までに計画区域内の下水道は、355haの面整備が完了していることとなる。また、計画上の残事業である残り5haについては、交付金決定額が要求額の約8割であったことから、特定財源が不足し、計画通りに事業実施できなかったことが未施工となった主な要因である。</p>
	<p>最終実績値</p>	<p>337</p>			
	<p>指標② 下水道処理人口普及率 (達成)</p>	<p>最終目標値</p>	<p>36.7</p>	<p>目標値と実績値に 差が出た要因</p>	<p>計画期間内に伊豆島田地区などを供用開始することができたため、平成26年度末までに下水道処理人口普及率は、37.7%まで増加し目標は達成できた。(人口53,301人(H27.2.1現在)に対し処理人口が20,082人)</p>
		<p>最終実績値</p>	<p>37.7</p>		

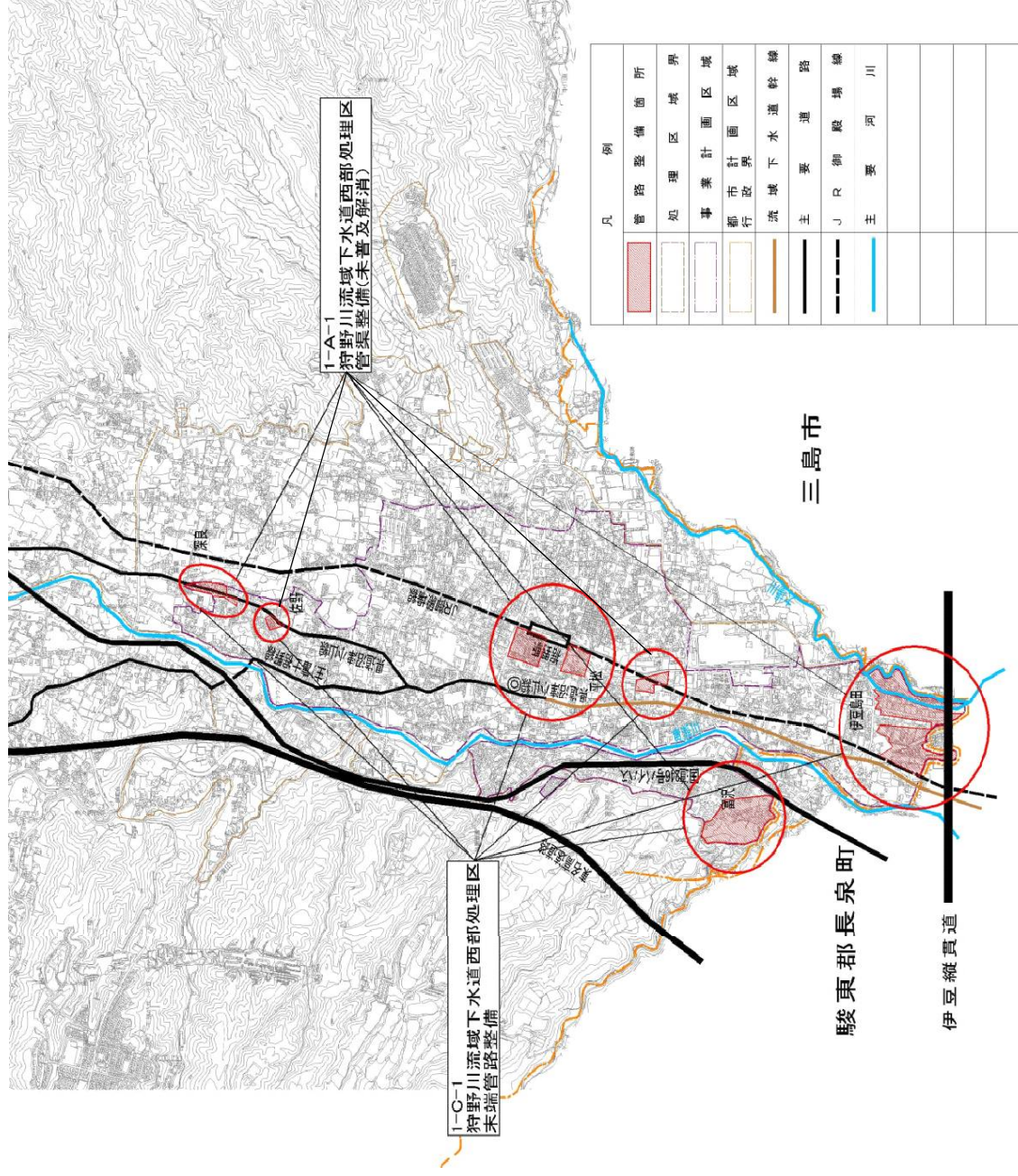
<p>II 定量的指標以外の交付対象事業の効果の 発現状況(必要に応じて記述)</p>	<p>下水道が整備されたことにより、衛生的で快適な生活を送るための環境が整った。</p>
---	--

3. 特記事項(今後の方針等)

平成22年度から平成26年度までの5年間で社会資本総合整備計画による下水道事業を行ってきたが、定量的指標に対し達成できない点があった。そのため、これまでの実績を平成27年度からの新たな整備計画へ反映させるために、事後評価を事業計画最終年度の平成26年度に行った。今後の方針としては、将来に渡って衛生的な市民生活の確保を図るため、これまでの実績をもとに、より効率的に下水道計画区域内の普及率を向上させる計画や管路等の長寿命化計画策定により計画的に将来の更新時期に備える計画を盛り込むことで、今後の見通しを的確に見据えた実現可能な整備計画を策定したい。

社会資本総合整備計画（第1回変更）

計画の名称	1 狩野川流域の地域が一体となり、下水道利用の推進	
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度（5年間）	交付対象 裾野市



凡 例	
	管路整備箇所
	処理区域界
	事業計画区域
	都市計画区域
	流域下水道幹線
	主要道路
	J R 御殿場線
	主要河川

三島市

駿東郡長泉町

伊豆縦貫道